

作業システムの目安との対応によるゾーニング区分（生産林と環境林）

市内のスギ・ヒノキ林について、地形条件（斜面傾斜）と道路からの距離を考慮し、今後も素材生産を続けていくべき「生産林」と、林業経営には不向きな条件にある「環境林」に区分しました。

ゾーニング区分

区分	内容
生産林1	車両系を主体とする作業システムに対応したスギ・ヒノキ林
生産林2	架線系を主体とする作業システムに対応したスギ・ヒノキ林
環境林	林業経営に適さないスギ・ヒノキ林、または広葉樹林

ゾーニング区分に用いた道路からの距離は、国土地理院の国土基盤情報の道路データ、傾斜区分は高知県の航空レーザ解析結果を用いました。これらを「作業システムの目安」（林野庁資料）に照らし合わせ、参考としながら、ゾーニング区分を検討しました。

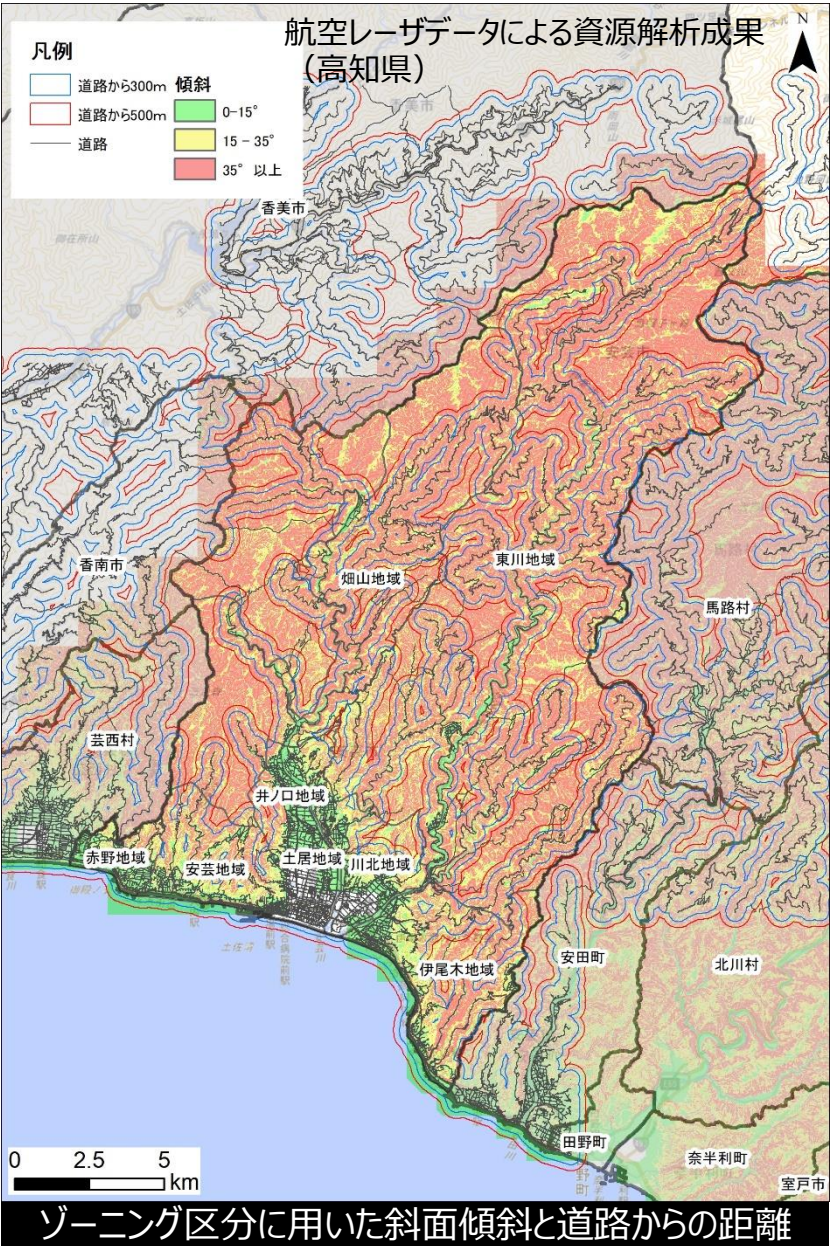
参考：作業システムの目安

作業システム	傾斜区分	路網からの最大到達距離	
		林道等から	森林作業道から
車両系	緩傾斜地（0～15°）	150～200	30～75
車両系	中傾斜地（15～30°）	200～300	40～100
架線系			100～300
車両系	急傾斜地（30～35°）	300～500	50～125
架線系			150～500
架線系	急峻地（35°～）	500～1500	500～1500

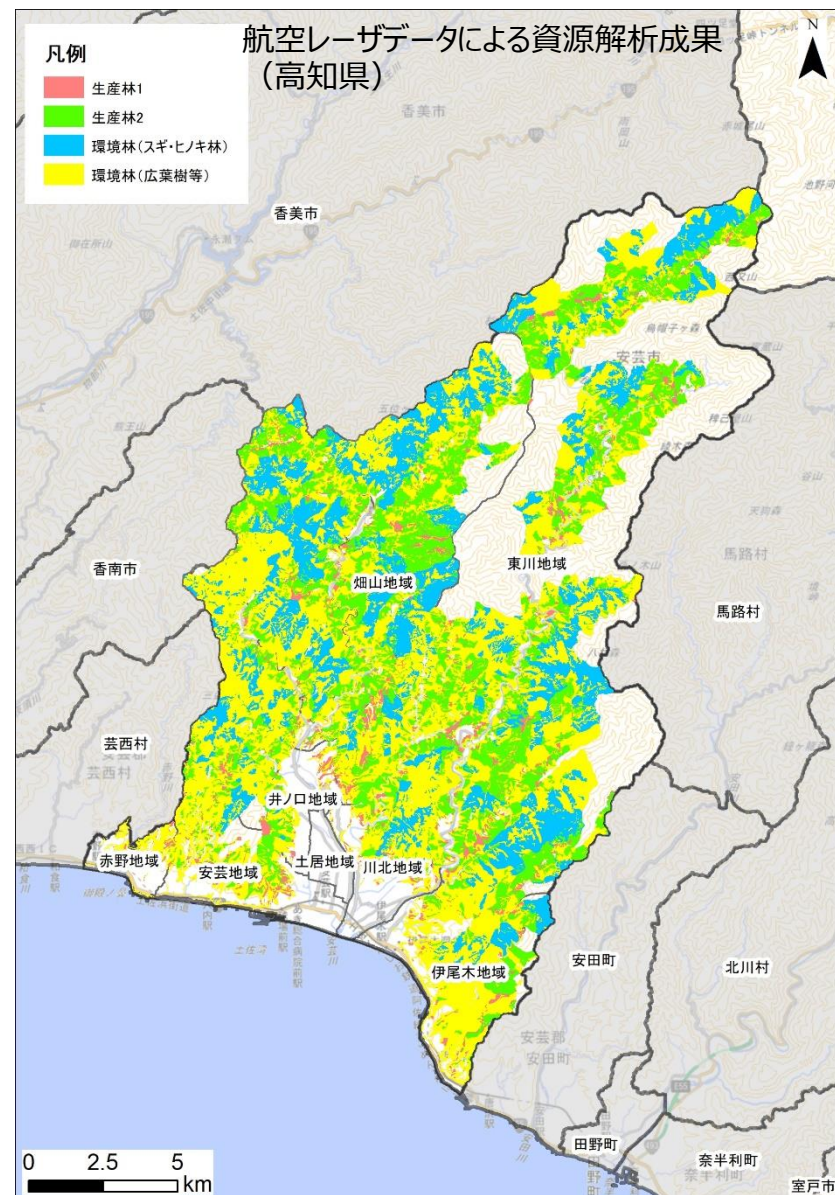
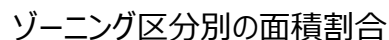
※林野庁資料より抜粋

ゾーニング設定に用いた数値

斜面傾斜	一般道・林道等からの距離			
	0～200m	200～300m	300～500m	500m以上
0～15°	生産林①	生産林①	生産林①	環境林
15°～30°	生産林①	生産林①	生産林②	環境林
30°～35°	生産林①	生産林②	生産林②	環境林
35°以上	生産林②	生産林②	生産林②	環境林



生産林1は約845ha（約4%）、生産林2は約5,221ha（約24.8%）で安芸市の民有林のうち約3割が生産林と位置づけられた。林業経営に適さない環境林（スギ・ヒノキ林のみ）は約4,600ha（約21.8%）であった。



ゾーニング区分図案

ゾーニング区分、諸条件から林班単位で森林整備の優先順位を検討

ゾーニング区分したスギ・ヒノキ林について、「要整備森林の割合」「施業履歴の割合」「森林経営計画策定済み小班の面積割合」等について、順位付けを行い、優先して整備を推進していく林班を抽出しました。

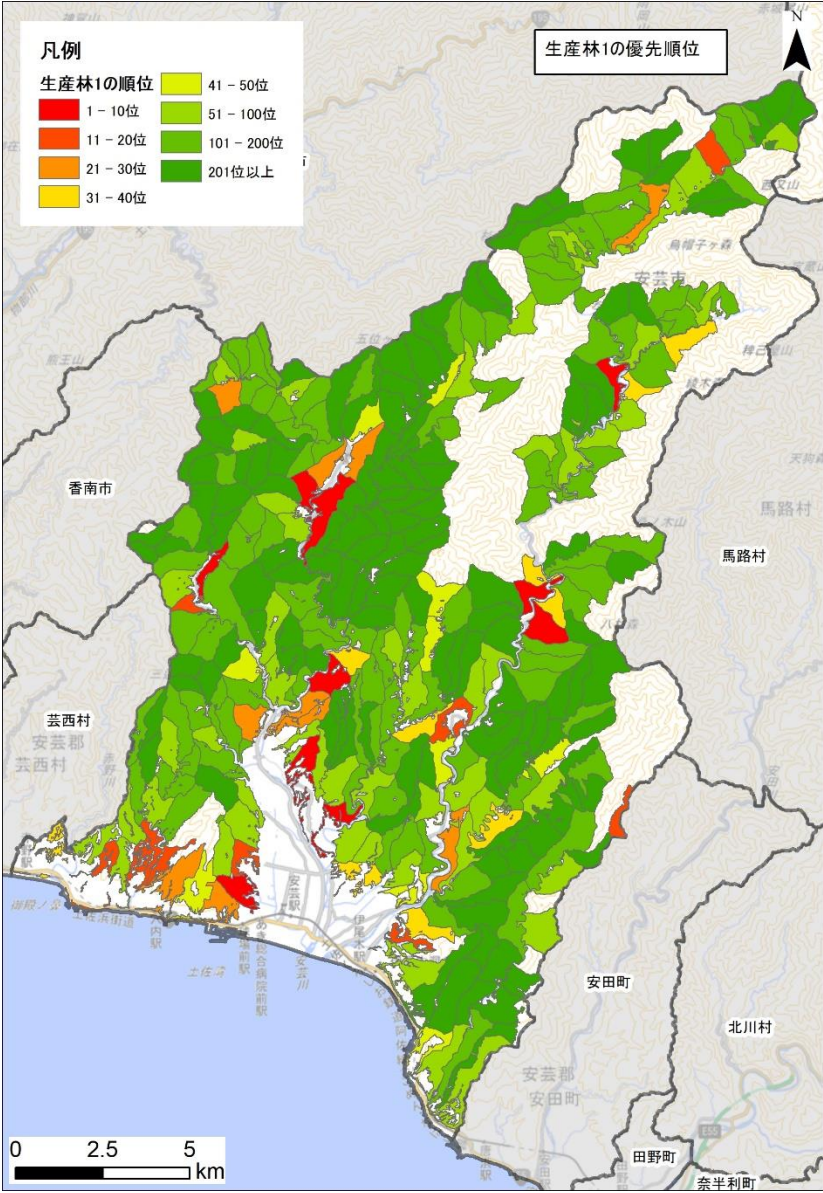
優先順位の検討に用いた諸条件（生産林1の場合）

優先度設定の要素	概要	判定
生産林の面積割合	林班面積に占める生産林1の面積の割合	多いほど高評価
森林経営計画率	林班面積に占める森林経営計画策定面積の割合	多いほど低評価
制限林面積率	林班面積に占める制限林面積の割合	多いほど低評価
施業面積率	林班面積に占める施業済み面積の割合	多いほど低評価
要整備森林率	林班面積に占める要整備森林面積の割合	多いほど高評価
生活圏からの距離	制限林を除く小班の重心と生活圏の距離から抽出し、林班で集計	近いほど高評価

※地域からの要望があれば別途反映

ゾーニング別の優先林班

順位	生産林1			生産林2			環境林		
	林班	地域	面積	林班	地域	面積	林班	地域	面積
1	54	畑山地域	36.5	220	東川地域	46.65	240	東川地域	67.99
2	23	安芸地域	66.7	274	東川地域	83.55	54	畑山地域	36.5
3	161	井ノ口地域	71.27	157	畑山地域	71.85	110	畑山地域	66.31
4	157	畑山地域	71.85	325	東川地域	33.23	274	東川地域	83.55
5	220	東川地域	46.65	54	畑山地域	36.5	94	畑山地域	59.99



生産林の優先順位案

